

中医協「第127回診療報酬基本問題小委員会」 新たな機能評価係数の“基本的考え方”を了承

2008/12/17

12月17日の中医協・診療報酬基本問題小委員会（委員長＝遠藤久夫・学習院大学経済学部教授）は、前回（11月19日）に引き続きDPCの在り方について議論。現在の調整係数を廃止して新たに設定する「機能評価係数」の基本的考え方を了承した。2009年3月末までに「新たな機能評価係数」として評価する具体的な項目をとめ、病院運営への影響度などをシミュレーションし、次回改定までに決定する。



基本小委は方針決定の場。分科会は検討材料の提供などを行う

新たな「機能評価係数」の検討に当たって

基本方針

- 1 調整係数が果たしていた役割のうち、前記「(1)前年度並の収入確保」については廃止することとし、「(2)現在の機能評価係数のみでは対応できていない病院機能の評価」については、新たな「機能評価係数」として評価できるものを検討する。
- 2 既にDPCで評価されている項目全体を整理し、既存の評価のあり方の見直しも含めて、新たな「機能評価係数」について検討する。
- 3 調整係数の廃止に際しては、新たな「機能評価係数」の検討結果を踏まえて、激変緩和を目的とした段階的廃止の有無やその方法について検討する。

“方針決定は基本小委”と役割を明確化

新たな「機能評価係数」については、中医協の診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会でも議論が進められていることから、同日の小委では、委員から基本小委と分科会との役割分担について説明を求める声が上がった。宇都宮啓医療課企画官は、「分科会ができた当初はDPC導入の評価および影響の評価が役割だったが、新たな「機能評価係数」を設定するにあたってはDPCで得られるデータの分析を踏まえて考えなければいけないので、そこに分科会の役割もある」とした。ただ、新たな「機能評価係数」の設定は政策的な面が強くあることから、「方針を決めるのは基本小委の役割であり、分科会の役割はそれに対する材料の提供や事例の提示などになると考えている」と両者の役割を整理した。基本小委に出席していた西岡清分科会長（横浜市立みなと赤十字病院長）も、「基本小委の決定をもとに、分科会では、国民が良い医療を受けているのかといった観点からツリーを変えたり、実際の満足度を調査したりしている。その中で改正点が出てくれば分科会から基本小委に提示し、基本小委で審議するのがこれまでの経緯」と補足した。